

水も食物も情報も富める国に集中

「一目瞭然！データで読む」 「金持ち国家」「貧乏国家」の天国と地獄

編集部



SPL/PPS
人工衛星で撮った夜の地球。夜間照明に照らされ、最も市街化された国はアメリカ、ヨーロッパ、日本。暗い地域はアフリカ、南米、ロシアであることがわかる。

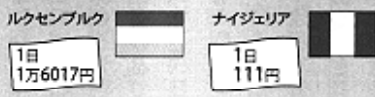
富める国と貧する国、明らかに世界は二極化している。では、その貧富の差はいったい何で推し量ればいいのか。所得か？ 社会の安定か？ 様々な角度から検証する、数字と目で見る貧富の格差。

① 1人当たり年間総所得で見ると、ルクセンブルク1人の所得で143人のナイジェリア人が養える。その国で暮らす人々の豊かさを測るための指標のひとつが「1人当たり国民総所得(GNI)」。トップは欧州の小国ルクセンブルク(5万2420米ドル)、最も少ないのがアフリカのナイジェリア(365米ドル)だ。ルクセンブルク1人のGNIはナイジェリア人の143人分、ナイジェリア人は1日につき1ドルしか所得を得ていない。ルクセンブルクの国土は神奈川県程度の広さで、人口は

1. 1人当たり国民総所得 (2003年)

高所得(米ドル)		低所得(米ドル)	
1	ルクセンブルク 52420	1	ナイジェリア 365
2	ノルウェー 49064	2	バングラデシュ 369
3	デンマーク 39049	3	ケニア 431
4	アメリカ合衆国 37524	4	パキスタン 473
5	アイスランド 35471	5	スリランカ 946
6	日本 34301		

総務省統計局「世界の統計2005」



50万人足らずだが、労働人口が約半数に達している。産業構造でもかつての鉄鋼業中心から脱皮し、1970年代には利子源泉課税廃止という金融業への規制緩和を行ない、欧州有数の金融センターともなっている。一方、アフリカ

諸国の経済的な成長は鈍化傾向。貧富の差は拡大を続ける。

② 金メダルの他段で見ると、2400万円のインドメダルを獲っても報奨金なしのイギリス

昨今、金メダルを獲得した選手に報奨金を与える制度が各国で拡充している(別表)。04年8月24日付のワシントンポスト紙によれば、アテネ五輪における最も高い報奨金はインドのパンジャブ州の21万5000ドル(約2440万円)。インドの国民1人当たり年間国民総所得(GNI)が約480ドル(約5万3250円)だけに、まさに巨万の富と言える。GNIが低い国ほど高額な報奨金を用意しているのが特徴的で、さらに、ギリシアでは金メダル獲得者の顔が切手になったり、ウクライナでは首都キエフに高級アパートが貰えたりと、報奨



2. 金メダル

金メダルの報奨金(米ドル)	
インド	215000 (1バングラ)
クウェート	165000
フィリピン	143000
ギリシア	122000
インドネシア	117647
ロシア	110000
ウクライナ	100000
フランス	48909
ポーランド	33600
日本	27000
アメリカ	25000
中国	24000
ドイツ	18341
韓国	13000
ガーナ	5000
イギリス	なし

金以外の副賞品も豪華だ。

また、96年のアトランタオリンピックで柔道の田村亮子を破り金メダルを獲得したケ・スンヒは、金正日総書記から高級乗用車、アパート、そして朝鮮労働党の党員資格が授与され話題となった。

逆に日本、韓国、アメリカ、中国などの国は制度はあるがさほど高額ではない。経済大国であるイギリスでは「オリンピックの精神に反する」として報奨金制度そのものが無い。国によって、金メダルの重さに大きな差があるのだ。

③肥満率で見ると

貧乏人ほど肥っている、

世界の貧困層に肥満が激増中

世界には総人口65億人の空腹を満たす食料があるといわれるが、それが人々に平等に行き渡っているわけではない。現在、世界に栄養失調者は11億人いるといわれており、さらに慢性的飢餓がそのうちの7億9000万人いるという。一方、肥満も人類の深刻な問題になっている。肥満度を測るBMI値は25以上で肥満、30以上は肥満症となるが、WHO（国際保健機関）の発表では、世界中の約10億人が肥満に認定されるという。

3. 肥満 BMI30以上の人口の割合(%)

上位10か国				下位10か国			
男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
データ入手国数: 100か国	データ入手国数: 137か国	データ入手国数: 100か国	データ入手国数: 137か国	データ入手国数: 100か国	データ入手国数: 137か国	データ入手国数: 100か国	データ入手国数: 137か国
1 ナウル	80.2	1 ナウル	78.6	91 タイ	3.5	128 ルワンダ	1.4
2 トンガ	46.6	2 トンガ	70.3	92 日本	2.9	129 マリ	1.2
3 クック諸島	39.6	3 サモア	63.0	93 中国	2.4	130 中央アフリカ	1.1
4 ボリネシア(仏領)	36.3	4 ヨルダン	59.8	94 コンゴ共和国	2.3	131 チャド	0.9
4 レバノン	36.3	5 ニウエ	46.0	95 フィリピン	2.1	131 ブルキナファソ	0.9
6 カタール	34.6	6 カタール	45.3	96 韓国	1.6	133 ハンガリー	0.7
7 サモア	32.9	7 ボリネシア(仏領)	44.3	97 マダガスカル	1.2	134 インド	0.6
8 ヨルダン	32.7	8 サウジアラビア	44.0	98 インドネシア	1.1	135 カンボジア	0.5
9 クロアチア	31.1	9 パレスチナ自治区	42.5	99 ガンビア	0.6	135 ネパール	0.5
10 アルゼンチン	28.4	10 アラブ首長国連邦	39.9	100 インド	0.3	137 エチオピア	0.2

ICTF (overweight and obese) 2002年

なかでも、肥満が最も多いとされるのがミクロネシアのナウル。全人口の約80%がBMI値30以上、成人では10人中9人が太り過ぎて人口約1万6000人という小国ながら、肥満大国^③となっている。また、トンガなども成人の9割が太り過ぎて肥満率が高く、こうした肥満化の最大の要因が食生活の欧米化だ。しかし、最近の問題は、貧困層に肥満が激増していること。これは食生活の欧米化だ

4. 平均寿命

上位10位(歳)		下位10位(歳)	
日本	81.9	シエラレオネ	34.0
スイス	80.6	レソト	35.7
スウェーデン	80.4	ジンバブエ	37.9
オーストラリア	80.4	スワジランド	38.8
アイスランド	80.1	ザンビア	39.7
フランス	79.8	リベリア	41.8
カナダ	79.8	アフガニスタン	42.6
イタリア	79.7	コンゴ民主共和国	43.5
シンガポール	79.6	タンザニア	46.5
イスラエル	79.4	エチオピア	48.0

総務省統計局「世界の統計2005」

人間の平均寿命を国別に見ると、最も長いのが日本の81・9歳。逆に最も短いのが

④平均寿命で見ると

日本人はシエラレオネ人の2・4人生きている

けが原因ではない。途上国が一定の発展を遂げ、1人当たりの所得が一定の水準に達するあたりから、貧困層に肥満が増え始める。貧富の差が拡大し始めると、良質の食物が富裕層に渡り、貧困層が購入できる食べ物には値段が安くて質の悪い、糖分、脂肪分、精製された穀物などで作られるジャンクフードに偏ってしまう。彼らには食物を選ぶ経済力がない。カロリーは摂取できて健康な身体を保つための栄養が取れず、肥満となるのだ。「かつて肥満が富のサインであったメキシコとブラジルでは今はそれが貧困を示す」

西アフリカのシエラレオネの34歳。この国の平均寿命の短さは内戦や、それに伴う医療設備の不整備など人為的な要因によるが、見方を変えれば安定した社会が人間の平均寿命を延ばす、ともいえる。

社会主義体制の国では所得水準が低くても平均寿命が比較的長い。キューバ、ニカラグアなどは平均寿命が70歳を超えており、どのような政治体制でも、安定した社会が平均寿命を延ばすという証左だ。米国は所得水準が高いにもかかわらず、平均寿命の長さでは20位と下り。同様の傾向を示す南アフリカなどにもいえることだが、貧富の格差が激しいといわれる国では低所得者層の寿命が短くなっており、それが全体の平均寿命を引き下げる結果となっている。

⑤エイズ感染者数で見ると

死亡者数を減らす先進国感染者数増大止まらぬ後進国

HIVは症状の現われていないキャリアをHIV感染者、すでに発症している者をAIDS感染者と区別される。

国連合同エイズ計画(UNAIDS)発表では、2004年末で世界のHIV感染者数は3490万人(世界の成

5. エイズ

感染者数(単位:1000人)					
東欧・中央アジア	1300(ロシア960、ウクライナ360)				
東アジア	900(日本12、中国840)				
南・東南アジア	6500(インド5100)				
北アメリカ	1000(アメリカ950、カナダ50)				
カリブ海諸国	430				
ラテンアメリカ	1600(ブラジル660)				
西ヨーロッパ	580				
北アフリカ・中近東	480(スーダン400)				
サハラ以南のアフリカ	25000(南アフリカ5300)				
オセアニア	32				
感染者率(%)					
スワジランド	38.8	ボツワナ	37.3	レソト	28.9
ジンバブエ	24.6	南アフリカ	21.5		

総務省統計局「世界の統計2005」

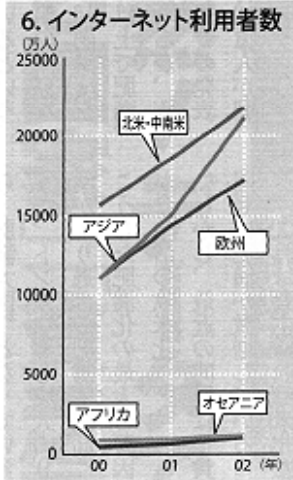
*2……体重÷身長²の二乗=BMI

*3……国際肥満学会(International Association for the Study of Obesity)発表

*4……ヒト免疫不全ウイルス(human immunodeficiency virus)

1	アメリカ	1億5900万人(55.1%)
2	中国	7950万人(6.3%)
3	日本	7730万人(60.6%)
4	ドイツ	3900万人(47.3%)
5	韓国	2627万人(55.2%)

総務省統計局「世界の統計2005」



総務省「情報通信白書平成16年版」

インターネット利用者数(普及率)の開発により、AIDSによる死亡者数を減少させている。先進国の開発の恩恵が、貧しい国々にもたらされるのはいつだろうか。

⑥インターネット利用者数で見ると、富める国と貧する国の情報格差が経済格差を促進させる

もはやインターネットは、単なる情報ツールの域を超えて国の経済を支えるツールと化しているといっても過言ではない。その証左に04年の世界のインターネット普及率と利用者数は、富めるアメリカが一番多く1億5900万人の利用者を数える。そして、経済発展が著しい中国が7950万人で2位となっている。一方、貧困にあえぐアフリカ諸国では、どの国も普及率10%未満だ。最も利用者の多い南アフリカでさえ310万人だから、その差は歴然である。

インターネットと貧富の関係は、利用者の増加数からもうかがえる。01年から02年の増加を地域別で見ると、新興経済4か国のBRICs(ブラジル・ロシア・インド・中国)を含む地域の利用者が激増しているのがわかる。例えば、中国とインドがあるアジアでは1億5088万人だったものが、1年で2億1136万人と6000万人以上も増えている。対して、アフリカは605万人から995万人。これは国の経済の成長とともに、通信インフラの整備が進むからだと推測される。

7. 研究費と研究者の数

	研究費 (100万米ドル)	研究者 (人) 98~02年
アメリカ	284584.3	1261227
日本	106838.2	646547
中国	72014.4	819525
ドイツ	54283.6	264685
フランス	36618.0	177372
イギリス	31037.4	157662
韓国	23459.5	141917
カナダ	18447.4	107300
イタリア	16351.3	66702
台湾	12194.1	810525
スウェーデン	10221.2	45995

総務省統計局「世界の統計2005」

⑦ノーベル賞受賞者数で見ると、GDP上位の英語圏が独走、経済大国から多数輩出

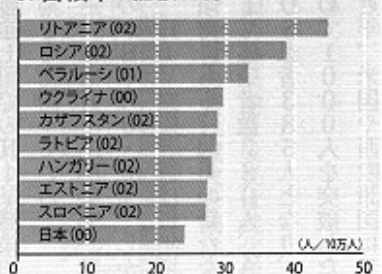
ノーベル賞発足から1世紀あまり、2005年までの総受賞者数は746人に達した。しかし、アフリカでは13人、世界最大の人口を抱えるアジア地域でも33人しか、その栄誉に浴していない。当然、アジアやアフリカ、オセアニアの国の中には、ノーベル賞受賞者皆無の国が多い。

一方、欧米、とくに、かつて存在した「鉄のカーテン」の西にある国々では、ほとんどの国がノーベル賞学者や作家を抱えている。中でも、アメリカには284人、イギリスは96人も受賞者がいる。つまりノーベル賞受賞者は欧米、それも自由主義陣営と呼ばれた国々に集中している。

この極端な格差には、経済力の差が反映している事は疑いようがない。事実、アメリカ(GDP1位)、ノーベル賞受賞者数1位)、イギリス(GDP4位、ノーベル賞受賞者数2位)、ドイツ(GDP3位、ノーベル賞受賞者数3位)、フランス(GDP5位、ノーベル賞受賞者数4位)と、大量に受賞者を輩出している国は、その経済規模も大きい。

そんな中、経済規模の割にノーベル賞受賞者が少ない国が、日本(GDP2位、受賞者数は12人)だ。同様に韓国(GDP11位、受賞者は平和賞の金大中のみ)や中国(GDP7位、受賞者は2人)も、経済規模の割には少ない。

8. 自殺率 [国名(年次)]



WHO発表

⑧自殺率で見ると、自殺率は社会の安定に直結、真の豊かさが表われる

WHOが収集した自殺統計(人口10万人当たりの自殺者数からはじき出す)によると、自殺率が最も高いのはリトアニアの44.7人。以下、ロシア、ベラルーシと続く。これらの国々に共通するのは、近年体制の移行などで社会情勢が不安定という点だ(ロシアは旧ソ連時代から自殺率は高い)。